

INTEGRATED REPORTING <IR>

IIRC ニュースレター フレームワークの発表から 1 年

「統合報告」 イヤーブック 2014

確実な利益のための強力な
コンセプトに基づいて



「統合報告は避けられないものになってきている」—調査研究、企業による実証、規制当局からの支援、投資家の識見のすべてがその事実を示している。同時に、統合報告がもたらす恩恵が世界中で歓迎されている。

「国際統合報告フレームワーク」は、今月で誕生から丸1年になる。現在、多くの企業が、報告の仕方・考え方・行動・さらにはビジネスを変えるためにフレームワークを活用している。「The <IR> Yearbook 2014」（以下、「Yearbook」）は、「統合報告」がどれだけ勢いを増してきたか、実務がどれだけ発展したかについて説明している。

Discussion Paper が「統合報告」のための論理的根拠を提示し IIRC Pilot Programme が始まった 2011 年から、調査研究が「統合報告」がメインストリームへと移行していることを示した 2014 年 12 月まで、「Yearbook」はその歩みを示してきた。現在、Business Network の参加者が、レポートングのアプローチにイノベーションを起こし、その歩みをリードしている。

「Yearbook」は、「統合報告」を開発、試行、リードする IIRC Pilot Programme の参加企業や投資家の体験談・ヒント・推奨事項に焦点があてられている。企業がなぜ、そしてどのように「統合報告」にチャレンジをしているかについて、IIRC Pilot Programme 参加企業の事例が示されている。また、最新のリサーチと投資家の見解を知ることできる。

「Yearbook」には、企業報告の新しい道を世界規模で開拓してきた IIRC Pilot Programme が3年の間に開催した主なイベントについて、その概要が報告されている。また、南アフリカ・ブラジル・日本・ヨーロッパ・オーストラリアなどの国における規制当局からの支持や、B20 のような国際機関からのアクション要求に関する記事もある。さらに、保証（情報の信頼性の担保）、テクノロジーの活用、公的機関による「統合報告」へのチャレンジに関する議論から洞察を深めることができ、企業がフレームワークの基本原則および内容要素をどのように適用しているのかに関する Pilot Programme カンファレンスの資料と情報へアクセスすることができる。

この「Yearbook」は、「統合報告」の実現をサポートしてくれた IIRC のパートナーに捧げる。IIRC は、金融の安定化と持続可能な発展という大きな目標に向け、統合思考及び統合報告を通じて資本配賦と企業行動を合致させることに尽力し、志を同じくする世界中の組織の連合体である。彼らなくしては、統合報告は、ただのコンセプトにすぎず、今日の姿はなかった。

ご支援いただきましてありがとうございます。2015 年もよろしく願いいたします。

「The <IR> Yearbook 2014」は、以下をご覧ください。
<http://www.theiirc.org/yearbook2014/timeline-assets/timeline.html>



Yearbook 抜粋：
Diesel and Motor の CFO である Suresh Gooneratne 氏は、DIMO が「統合報告」について議題をしている理由を説明している。



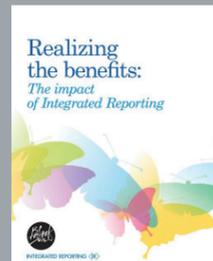
Yearbook 抜粋：
IIRC CEO、Paul Druckman 氏は、新しい「統合報告」Business Network について説明している。



Yearbook 抜粋：
Unilever の Director of Accounting Development である Matthew Cannon 氏は、財務情報のみでは不十分である理由を説明している。



Yearbook 抜粋：
Primavenue の Director of Pharmaceutical Advisory Services である Marietta Miemietz 氏は、「統合報告」に対する投資家の見解を示している。



Yearbook 抜粋：
Pilot Programme に参加した企業が気づいた影響とメリットに関するリサーチ



IIRC Website



Twitter



LinkedIn

Contact: pippa.whittaker@theiirc.org